

■ロシア革命

p 214

○ロシア革命年表

<第一次ロシア革命>

- 1870 レーニン誕生 (～1924)
- 1891 シベリア鉄道着工 大津事件 (5.11)
- 1894 ニコライ2世即位 (在位 1894-1917)
- 1904 日露戦争開始 (1.26)
- 1905 旅順陥落 (1.2) 「血の日曜日」事件 (1.9) ……第一次ロシア革命
戦艦 ポチョムキン号の反乱 (6) ポーツマス条約調印 (8.23)
政府、「十月宣言」を發布 (10.17)
- 1906 政府、国家基本法(憲法)公布、第一国会(ドゥーマ)開会 (4月)
- 1907 ストルイピン首相、国会を解散 (6月)

<第二次ロシア革命 二月革命>

- 1914 ドイツ、ロシアに宣戦(第一次世界大戦に突入)(西暦 8.1)
ロシア軍、タンネンベルクの戦いで大敗(8)
- 1915 ロシア軍、ワルシャワ放棄 (7)
- 1916 中央アジアの民族反乱開始 (7) ラスプーチン暗殺 (12.16)
- 1917 首都ペトログラードでストライキ開始 (2.23) ……二月革命始まる
ペトログラード・ソビエト結成 (2.27) 臨時政府成立、皇帝(ツァーリ)退位 (3.2)
ロマノフ王朝崩壊 レーニン、スイスより封印列車で帰国 (4.3) →翌日「四月テーゼ」発表 ケレンスキーを首相とする第二次連立政府成立 (7.24)
コルニーロフ、自己の部隊に首都進撃命令 (8.27 → 9.1 逮捕)

<第二次ロシア革命 十月革命>

- 1917 ボリシェビキ中央委員会、武装蜂起を決定 (10.10) ……十月革命始まる
首都のソビエトに軍事革命委員会設立 (10.16) ソビエトと臨時政府の武力衝突始まる (10.24) 首都でソビエト政権樹立宣言 (10.25) 臨時政府崩壊
第二回全ロシア・ソビエト大会 (～27日) 「平和についての布告」「土地についての布告」を採択し、レーニンを議長とするボリシェビキ単独の臨時労農政府を樹立、モスクワでソビエト政権樹立宣言 (11.3)
- 1918 ブレスト・リトフスク条約調印 (3.3) ボリシェビキ党、第7回党大会でロシア共産党(ソビエト共産党)と改称 (3.6) チェコ軍団、反ソ反乱開始 (5.25) 日本、シベリア出兵宣言 (8.2) 第一次世界大戦終結 (11.11)

1919 白軍、第一次総攻撃開始 (3.4)

1921 クロンシュタット軍港反乱 (3.1) 第 10 回共産党大会 (3.8-16)、戦時共産主義体制からネップ (新経済政策) への移行を決定

■シベリア出兵

p 214

○シベリア出兵 (1918 ~ 1922) ③④

- ・日本はロシアの脅威、赤化ロシアの脅威を最も敏感に感じ取っていた
- ・欧米諸国も軍を送って、革命阻止の干渉戦争を開始
- ・1918 日米英仏伊加、シベリアへ共同出兵…①チェコスロバキア軍の救出
②満洲の権益を守る

* 黒岩伝治『渦巻ける鳥の群れ』…シベリア出兵の苦難を描いた作品

○尼港事件 (1920.5) 注 1

- ・シベリアのアムール川河口の都市・ニコライエフスク市をソ連共産党のパルチザン 4 千人が襲った事件
- ・日本人居留民 700 人が斬殺される
- ・市全体の犠牲者は 6 千人→シベリア出兵を長期化させる要因となった

■総力戦

p 215

- ・第一次世界大戦は予期に反して 4 年間も続いた
- ・総力戦という新しい特徴…①国民経済・科学技術の全てを動員、
②敵国の多数の兵士や市民を殺傷する戦争
- ・新兵器の威力…航空機、戦車、塹壕戦、ガスマスク、飛行船、潜水艦
- ・国民の犠牲…兵役、軍需工場 (→女性の社会進出 ⑦)

○【質問】 p 215 ⑧第一次世界大戦における人的損害 の表を見て、気づいたこと、考えたことを書き出して下さい。

■大戦の終結

p 215

- ・アメリカの参戦→局面を変えた→同盟国側が敗北
- ・ドイツ帝国崩壊→ワイマール共和国成立
- ・日本…少ない犠牲で戦勝国となる→軍事知識の進歩に遅れる原因に
- ・太平洋をはさむ日本とアメリカの 2 つの国が発言力を強める

大人が学ぶ <誇りを持てる日本の歴史> 学習会 ワークシート
【20限目】共産主義とファシズムの台頭 p 226 - 227
令和5年1月7日

■ 2つの全体主義

p226

○ ヨーロッパに生まれた2つの政治思想・・・1920s～1930s 世界に広がる

① 共産主義・・・マルクスの思想→ロシア革命を引き起こす

② ファシズム・・・イタリア、ドイツ

共産主義とファシズムの全体主義としての共通点（核心をなす思想）とは
個人を、全体（国家・民族・階級など）の目的を実現する手段として位置づける
→国家権力が個人の私生活まで統制することを正当化

■ 共産主義の台頭

p226

○ 共産主義の思想

- ① 資本主義の下で抑圧された労働者階級が
- ② 団結して革命を起こし
- ③ 資本家を殺害・追放して
- ④ 生産手段の国有化と計画経済を実行し
- ⑤ 階級も差別もない理想社会（共産主義社会）をつくる
- ⑥ その手段として共産党に全ての権力を集中する一党独裁体制（プロレタリア独裁）
を布く *プロレタリアート（古代ギリシャの無産市民）→マルクスによる「プロ
レタリアートの発見」

○ ソ連の動向

- ・レーニンからスターリンへ 共産党では書記長が一番実権を握っているのはなぜか？
- ・スターリン 重工業化、農業の集団化 秘密警察と強制収容所による反対派の処刑
犠牲者2千万人

○ スターリンの独裁と「人民の敵」 p 227 ⑥

- ・定義のないレッテル用語の危険性

*『フルシチョフ秘密報告「スターリン批判」全訳解説』（1953）（志水速雄訳、講談社
学術文庫、1977刊）

○スターリンによる 1937-38 年の大粛清

一九三七年一月にすでに牢獄または強制収容所にいた者	およそ	五〇〇万人
一九三七年一月から一九三八年一二月のあいだに逮捕された者	およそ	七〇〇万人
	計	およそ 一二〇〇万人
そのうち処刑された者	およそ	一〇〇万人
収容所で一九三七―三八年のあいだに死んだ者	およそ	一一〇〇万人
	計	およそ 三〇〇万人
一九三八年末の囚人数	およそ	九〇〇万人
そのうち牢獄にいた者	およそ	一〇〇万人
収容所にいた者	およそ	八〇〇万人

* ロバート・コンクエスト『スターリンの恐怖政治』

■ コミンテルン (1919 ~ 1943 の結成

p227

○「世界革命」から「一国社会主義」へ

- ・ ヨーロッパにおける革命の失敗→マルクスの「世界革命」の挫折→スターリンによる「一国社会主義」の建設→ソ連は世界共産主義革命の拠点（革命の輸出）

○インターナショナルとは

- ・ 中世のヨーロッパ王家のインターナショナルイズム→フランス革命のナショナルイズム→労働者組織のインターナショナルイズム
- ・
- ・ 1919 モスクワでコミンテルン創立大会（3.2-6）開催・・・第三インター

○各国共産党の創立

- ・ p 226 注 1 コミンテルン
- ・ p 226 ③ コミンテルンと各国共産党の設立年
- ・ p 227 ④ コミンテルンのスパイ活動

○日本共産党の創立

■ ファシズムの脅威

p227

○ファシズムの台頭

- ・ イタリアのファシズム・・・第一次世界大戦の戦後処理への不満が背景
1922 年ムッソリーニ、ファシスタ党による独裁政治 「ファッショ」（結集する）→ファシズム
- ・ ドイツ・・・ヒトラー、ナチス（国家社会主義ドイツ労働者党）を率いて躍進 ナチズム
ヴェルサイユ条約による過酷な賠償が背景→ゲルマン民族の栄光と、

雇用の拡大を訴え 1933 年ワイマール憲法下で合法的に政権奪取→独裁化
ファシズムは民主主義から生まれた ユダヤ人（スケープゴート）の迫害
ナチス・ドイツ（ヒトラーが支配した時代の）

○全体主義とは何か

- ・「全体主義」(totalitarianism)・・・1950 年代にアメリカで成立した政治学的概念
- ・ヒトラーとスターリンの共通性
 - ①秘密警察と強制収容所→反対者への大量処刑を実行
 - ②国家の上に党を置く体制 国家は中立の存在ではなく党の支配の道具に過ぎない
- ・ヒトラー（右翼全体主義）、スターリン（左翼全体主義）という区分も成り立つ
- ・2 つの全体主義国家は、互いに対立しつつ、支配の仕方を学び合っていた p 227 注 5

○政治学用語の混乱を正す

- ・君主制・・・君主が存在する体制 専制君主制／立憲君主制（明治憲法以後現在に至るまでの日本の国家体制→教科書検定で「象徴天皇制」概念を押しつける、君主制と民主主義は両立し補完し合う
- ・共和制・・・君主のいない（貴族などによる）政治体制
- ・民主主義とは・・・「民衆（demo）主義（cracy）」・・・危険な語感→吉野作造「民本主義」
 - *長谷川三千子『民主主義とは何か』（文春新書） 「主義」という訳語の問題
 - 「デモクラシー」（民主制）の正確・簡明な定義・・・治者と被治者の同一
- ・天皇制ファシズム論の誤り・・・日本は戦争中も選挙が行われ憲法が機能していた
ファシズムは単なる非難語に過ぎないだけの機能
- ・軍国主義とは・・・戦時動員体制のこと 一時的な言論の統制は当然 第二次世界大戦の参戦国はすべて軍国主義 日本のみを軍国主義と非難するのは誤り

○ 20 世紀における共産主義の被害

ソ連	死者二〇〇〇万
中国	死者六五〇〇万
ヴェトナム	死者一〇〇〇万
北朝鮮	死者二〇〇〇万
カンボジア	死者二〇〇〇万
東欧	死者一〇〇〇万
ラテンアメリカ	死者一五〇万
アフリカ	死者一七〇万
アフガニスタン	死者一五〇万
国際共産主義運動と、政権についてない共産党	死者約一千万
殺された合計は、億人に近い。	

*クルトワ他『共産主義黒書－犯罪・テロル・抑圧＜ソ連篇＞』